

2016年4月10日（日）週報巻頭言

ヨハネ黙示録を読む

ヨハネ黙示録は迫害を受けているクリスチャンを励まし、希望をもつように力づけるために書かれました。権力者にわかったのでは困ります。それゆえに、暗号のように、また象徴的に表現して伝えます。

第4章では四つの生き物が登場します。「第一の生き物は獅子」、「第二の生き物は若い雄牛」「第三の生き物は人間のような顔を持ち」、「第四の生き物は空を飛ぶ鷲」です。これらは自然界でそれぞれ力強い存在です。猛獣、家畜、被造物の代表、鳥類というのです。被造物すべてが神を礼拝している姿を伝えるのです。

24人の長老は「主よ、わたしたちの神よ」とよびかけます。迫害をしていた当時のローマ皇帝はドミチアヌスです。彼は「ローマ皇帝を主と礼拝するように」と命令しました。しかし、クリスチャンは「イエスこそ十字架においてわれらの罪を贖って下さった」と告白しました。4章11節はローマ皇帝への礼拝を拒否しています。

ラテン語では「わたしたちの主であり、神」とは「ドミヌス・エト・デウス・ノステル」と発音します。さもローマ皇帝をたたえているように聞こえますが、そうではありません。「主であり、(父なる)神」をクリスチャンは礼拝するのでした。このようにヨハネ黙示録はキリスト者でないと分からない表現で創造の主をたたえたのでした。

(山下誠也)